令和４年度　学校評価書

令 和 5 年 3 月 1 日

福生市教育委員会　殿

福生市立福生第三中学校
校 長　植 村 多 岐　印

１　今年度における重点的な取り組み

(1) 学習

・校内研修の研究主題を「主体的・対話的で深い学びの授業実践」とし、授業力の向上を図る。
・授業の中でねらいを明確にし、生徒自らが学習の見通しを立てたり、振り返ったりする活動を取り入れ、端末を活用した学習を充実させることで、生徒の主体性や学びに向かう力の育成を図る。
・家庭学習の習慣づくりを行い、放課後学習支援活動など補充的な学習機会も同時に充実させる。
・福生市学力・学習状況調査等の調査結果や年３回の生徒アンケート、A「学ぶ楽しさを感じる」B「授業が分かる」から、生徒の実態を把握・検証し、授業改善に活かす。

(2) 健全育成

・全ての活動の中で生徒が他者から「認められ、感謝される」体験を重視する教育を展開し、自尊感情の育成を図り、「安心安全で、認められ、楽しい体験ができる学校づくり」をする。
・健全育成においては、「校訓 礼節」を基本的とする。また、社会的自立に向け、「身だしなみ、そうじ、挨拶、時間、授業規律」を凡事徹底として取り組んでいく。
・教員の生徒理解力を高め、組織としての緊密な情報交換の下に、いじめ等の防止に努める。

(3) 不登校・特別支援教育

・特別支援教育を重要視し、コーディネーター及び校内支援委員会が中心となり、福三教室、教育センター、福祉、医療機関と連携しながらそれぞれの生徒の課題に応じた対応を丁寧に行う。
・特別支援教室専門員、SC、SSW,臨床発達心理士巡回指導員、子供と家庭の支援員等と連携して具体的な支援の方向性を確認し、相談活動の充実を図りながら個に応じた厚みのある対応を行う。
・「誰一人取り残すことのない教育」の推進のために、校内研修を充実させ、全教職員が発達障害や不登校及び学校生活不適応生徒についての理解を深め教員の実践的指導力の向上を図る。

(4) 特別活動

・生徒会活動、学級活動、全校行事を通して、自校に誇りをもち、協力してより良い学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。とりわけ、体育祭と音楽会においては、２大行事と位置付け、集団としての達成感から生徒一人一人の自尊感情や自己肯定感、帰属意識を高める。

(5) 学校運営

・常にカリキュラム・マネジメントを確立して教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図る。
・教育公務員としての自覚を常に促し、服務事故防止に向けて、全教職員が組織的に取り組む。
・本年度の研修テ―マに基づき、研究授業を実施し、教員が切磋琢磨し授業力の向上に取り組む。
・学校評価書や生徒・保護者・教員アンケートの結果をホームページや学校便り等で公開するとともに、保護者会、三者面談、CS 会等を通して得た保護者や地域からの情報や願いを、学校運営に積極的に反映していく。

(6) 地域との連携

・コミュニティ・スクールとして、地域に開かれ、地域から信頼される学校づくりを実現させるため、学校運営協議会を機能させる。また「地域防災・安全指導」「地域の人材から学ぶ」「学校・地域美化活動」「挨拶運動等の健全育成」「学校評価」をバランスよく行い、その活動をさらに発展させる。

２　自己評価の総括

※アンケート結果からは、「当てはまる」と「だいたい当てはまる」の2つの肯定的評価を注視するのではなく、「当てはまる」のみに注視することで、具体性な改善への一歩としたい。（2年目）

(1) 学習

・校内研修の研究主題を**「主体的・対話的で深い学びの授業実践」とした。**校内研修を中心に、授業研究➡研究協議会という形式で繰り返し研修を行い、今年は ICT の活用方法及び生徒理解の視点からの研修も深まった。また、後半は、都の研修センターから３名の指導主事を招聘でき、全教員への授業観察から細かな指導・助言が得られた。５時間目の授業研究では、数学、理科、英語の学習内容を中心に「主体的な学びの視点」「見通しと振り返りを生かした指導の工夫」「分かりやすい学習環境の

工夫」等を確認でき、授業改善への意欲が高まった。下記の授業の分かりやすさのアンケートでは、教員の「当てはまる・だいたい当てはまる」の評価が 92%に対して、生徒が 75%と 17 ポイントの開きがある。この差を埋めることが本校の今後の課題でもある。

○生徒アンケート　「学校の授業は分かりやすく、学ぶ楽しさを感じる」　**75%**
○保護者アンケート　「教員の努力や授業改善の姿勢を感じる」　81%
○教員アンケート　「分かりやすい授業を目指して授業改善を行い、研究授業を実施した」　**92%**

生徒による授業評価　**（各授業内で学期末に実施）**

教科名　　・担当教員名

A. 授業を受けていて、「学ぶ楽しさ」を感じられますか。
1　感じる　　**2**　どちらかといえば感じる
3　どちらかといえば感じない　　**4**　感じない

B. 授業を受けていて、どの程度わかりますか。
1　よく分かる　　**2**　どちらかといえば分かる
3　どちらかといえば分からない　　**4**　分からない

＜３年生＞
○上記、生徒による授業評価　A「授業は学ぶ楽しさを感じられるか（２学期９科平均）」→**「感じる」68%**
B「授業はどの程度わかるか」（２学期９科平均）」→**「よく分かる」　50%**

・上記は、質問項目を２つに絞った本校３年生の「生徒による授業評価」である。結果は、９教科の中で**「楽しさを感じる」**が８５％の教科がある一方、４０％といった低い教科があり、授業が**「よく分かる」**も教科によって７７％から３９％の開きがある。各教科で生徒の反応や実態を的確につかみ、一人１台端末の有効活用も視野に入れながら、各自が授業について振り返り、改善する必要がある。

・「学習習慣の確立」では、ICT の活用も重要としているところであるが、自宅での時間の使い方を含めた生活スタイル全体を見直した指導も必要である。

○生徒アンケート　「毎日家庭で学習する習慣ができている（塾や習い事を除く）」　**14%**(up)
○保護者アンケート　「お子さんは、言われなくても進んで家庭学習に取り組んでいる」　21%(同)
○教員アンケート　「家庭学習の習慣を確立のための指導行い、工夫した」　7%(down)

(2) 健全育成

・「自尊感情の育成」を方針に掲げているが、生徒の活動意欲を高めるためにも教員が多様な価値軸で生徒の長所を見つけ、認め、引き出し、自信をもたせる指導をさらに推し進める必要がある。

○生徒アンケート　「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」　**41%**(up)
○保護者アンケート　「教員は、お子さんをよく理解し、よいところを認めてくれている」　**39%**(up)
○教員アンケート　「一人一人の生徒を認め、力を引き出す指導ができた。」　**50%**(up)

・本校は各教室に【校訓　礼節】を掲げている。将来の自立に向けての基礎として捉え、「凡事徹底」をモットーに基本的な生活態度や生活習慣の育成を、生活指導部中心に組織として粘り強く丁寧に行う。

○生徒アンケート　「時間を守る・身だしなみを整える等の決まりを守ることができた」**49%**(up)
○保護者アンケート　「お子さんは、決まりを守ることができている」　41%(down)
○教員アンケート　「時間を守る・身だしなみを整える等の指導を学年学級で行った。」33%(down)

・今年も「人権教育」を本校の育成の柱として位置づけ、朝礼での講話、「道徳」授業での「人権尊重」や「思いやり」「友情」等を重点的に扱い指導した。日頃から教員が人権感覚を高め、生徒の実態を常に把握し、「いじめ防止」等、より生徒に考えさせることを重要視する指導が必要である。

○生徒アンケート	「いかなる理由があっても「いじめは絶対にいけない」気持ちがある」68%(同)
○保護者アンケート	「学校は、教育活動を通じて、いじめのない学校づくりに努めている」 **24%**(up)
○教員アンケート	「いじめを未然に防ぐ心の教育や、思いやりを育む指導を行った」50%(同)

(3) 不登校・特別支援教育

・不登校生徒　２月末現在３０日以上欠席生徒数	１１名（病気欠席は除く）
	5%　　（令和３年度 4.5%）

・個々の実態に合わせた働きかけや、保護者との情報交換、個別支援カルテ等を活用した指導に加え、教育センター、福三教室、福祉、医療機関と連携しながら対応を行えた。生徒の実態把握に加え保護者の状況もよく把握しながら、焦らず・慌てず対応していくことが必要である。

(4) 特別活動

○生徒アンケート	「体育祭や音楽会などの行事に意欲的に取り組んでいる」57%(down)
○保護者アンケート	「お子さんは、体育祭や音楽会などの行事に意欲的に取り組んでいる」54%(down)
○教員アンケート	「学校行事を通して、人間関係づくりや自尊感情の向上に取り組んだ」67%(up)

・三者ともに、「当てはまる」の評価が５０％以上と最も高い設問の一つといえる。今後も体育祭と音楽会を２大行事と位置付け、生徒をより主体的に活動させ、集団としての達成感や成就感を体感させ、る中で生徒一人一人の自尊感情や自己肯定感、帰属意識を高める。

(5) 学校運営

・日常において、教員同士がコミュニケーションを密にとり、相互理解に努め、子供のために前向きに努力できる雰囲気の中、緊密な連携の下に日々の教育活動に当たる。また、各自が自己の役割と責任を意識して学校経営に意欲的に参加する学校文化を醸成する。

(6) 地域との連携

・今年は、昨年以上に地域での活動を充実させることができた。それらの活動を通して生徒たちは多くの方から「ありがとう」の言葉をもらい、自信がもてたり、自己有用感の育成につながった。さらに参加生徒を増やし、地域に貢献できる学校を目指したい。

3　自己評価に対する改善策

(1) 学習

・将来、生徒が社会に出て活躍するために必要な「資質・能力」をさらに明確化し、「道徳科」の校内研修等を通して共有できる目標と方法を設定し、全教員のベクトルをそろえた上で改善を図る。

・①「授業で学ぶ楽しさを感じられるか」、②「授業がよくわかる」の２点に絞った「生徒による授業評価」を各学期に行い、生徒の声を各教員が授業改善に生かし生徒の主体的な学習活動をさらに促す。

(2) 健全育成

・自尊感情や自己肯定感の向上が、健全育成や学習意欲につながると思われる。生徒が切磋琢磨する活動をとらえ、生徒の行動を価値づけたり、認めることで生徒に自信をもたせることが必要である。

「自尊感情の向上が生徒一人一人の目を輝かせ、何事に対しても前向きに取り組むことのできる三中生へと成長させる。」という経営方針を共有し、日々の教育活動を組織的に展開する。

・教員が生徒に寄り添い、物理的にも心理的にも生徒のそばにいる教員を基本姿勢におく。一方、組織としていじめの未然防止、早期発見、早期対応の取組を徹底していく。

・道徳の授業において「考え・議論する道徳」を校内研修で取り扱い、個々の教員の授業力を高めることで、生徒自らが自己の生き方について深く考えさせる。

(3) 不登校・特別支援教育

・悩みを抱える生徒、不登校の生徒などの対応について、教育センターおよび医療・福祉面の連携を強化する。また、生徒の背景を捉え、教員が生徒に共感や尊敬を寄せ、カウンセリングの手法を取り入れた実践的対応力を高める。

(4) 特別活動

・体育祭と音楽会を三中の２大行事と位置付け、集団としての達成感や成就感を体感させ、生徒一人一人の自尊感情や自己肯定感、帰属意識を高める。

(5) 学校運営

・生命尊重・人権尊重・人格尊重を基盤に、全ての教育活動で一人一人を大切にする教育活動に取り組む。また、小規模校の長所を生かし、本校の特色のある教育につなげ、働き方改革も意識しながらも、新しい取り組みにも積極的に取り入れる学校文化を醸成する。

(6) 地域との連携

・CS の活動の基本となるものは３年間を通し軌道に乗ったと言える。しかし、実際の活動においては、昨年度と同様、地域支援スタッフの人員不足があった。スタッフの募集を図り対応する必要がある。

４　学校関係者評価の総括

CS 委員における、【１７項目の「学校関係者評価アンケート」（「生徒・保護者・教員」と基本的に同じ設問）】評価の結果は下記の通りである。＜＊答えられない質問は空白のままでもよい＞

＜１当てはまる　　２だいたい当てはまる　　３あまり当てはまらない　　４当てはまらない＞

番号	質　　問	CS委員9名による回答			
		１の数	２の数	３の数	４の数
問１	生徒は楽しそうに登校している。	3	5	0	0
問２	授業は分かりやすく、教員の努力や改善の姿勢を感じる。	8	1	0	0
問３	授業では発表したり、話し合ったりする活動が取り入れられ、一人一人の生徒を大切にする教員の意欲が感じられる。	6	2	0	0
問４	一人一台の学習用iPadは、生徒の学びに役立っている。	6	2	0	0
問５	教員は、家庭学習の習慣を身に付けさせるための指導をしている。	3	3	0	0
問６	体力向上のため、適切な取り組みが行われている。	5	2	0	0
問７	教員は、一人一人の生徒を認め、力を引き出す指導をしていると感じられる。	3	5	0	0
問８	生徒は挨拶ができている。（地域も含め）	3	5	0	0
問９	生徒は時間を守り、身だしなみが整っている。	6	3	0	0
問１０	学校は、日常の教育活動を通じて、いじめのない学校づくりに努めている。	3	2	0	0
問１１	学校では学習や行事等を通して生徒に夢や目標をもたせ、将来の自立に向けた教育をしている。	4	2	0	0
問１２	生徒や教職員は体育祭や音楽会等の学校行事に意欲的に取り組んでいる。	7	1	0	0
問１３	「七五三挨拶運動、四地区水・防災訓練、花いっぱい運動、落ち葉掃き清掃」等、生徒は生き生きと活動している。	7	1	0	0
問１４	学校は、授業参観、保護者会等を工夫し、保護者の参加率を高める等、理解や協力を得られるように努めている。	4	4	0	0
問１５	学校だより、ホームページ等の情報で学校の様子やCS会の内容がよくわかる。	6	2	0	0
問１６	学校は、SNS上のトラブル防止、災害防止に対する知識や、身の安全を守るための対処の仕方など生徒に身に付けさせている。	3	2	0	0
問１７	学校は新型コロナウイルス感染症への予防に努め、対応は適切である。	4	2	0	0

＜CS 委員からの指摘内容＞

・今年度の地域行事「四地区合同水・防災訓練」や「富士見公園の清掃」「総合防災訓練」等、三中生の参加数が増加傾向にあり学校及び生徒の前向きな姿勢が感じられた。防災意識の向上という点においてもその貢献度が高く、特に地域の高齢者からの評価も高かった。与えられた仕事を笑顔で取り組み、走って移動し働く生徒の姿がよかった。エネルギーをもらうことができた。

・授業を参観した感想は、年々ICT やタブレット端末を活用した授業が多く見られるなど、教員の工夫が感じられる。しかし、毎年のことであるが落ち着いて授業を受けている反面、活気という点では受け身の生徒も見受けられる。さらなる主体性の育成に期待したい。

・今年も「家庭学習の習慣」の確立が課題となっている。生徒の日常生活上の生活のリズムやユーチューブやゲームに費やす時間の増加が原因の一つであることが学校の説明で理解できた。保護者との連携の必要性を強く感じた。
・道徳授業地区公開講座において、シンガーソングライターを招き、道徳性について学校、保護者、地域で考え、共有できたことはよい取り組みであった。そのお陰で後半の意見交流会も内容において充実していたし、参加者の意見も出しやすかった。
・伝統になりつつある「七五三挨拶運動」はよい。さらに地域ぐるみで挨拶の重要性を広めて行きたい。

5　学校関係者評価に対する改善策

学校関係者評価について、全体として学校の教育活動、課題解決の方向については一定の評価を得ていると考える。その上で、以下の３点を課題として、次年度に取り組んでいく。

（１）学習
・一人１台端末を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを推進する。そして、「確かな学力」は、生徒の自己実現を図り、将来の夢や希望を実現させる下支えになるものと全教職員で再認識し、それを本校の課題として捉え、個人として組織として授業改善及び学習習慣の確立を図らせる。

（２）不登校・特別支援教育
・不登校対応や特別支援教育は【教員の知識の「ある・なし」が生徒の支援や成長を大きく左右させるものである】という認識の下に、教員の専門性の向上のための校内研修会を充実させる。また、不安を抱えがちな保護者に対して、子育ての苦労に共感しねぎらい、具体的な進路先の知識から将来の見通しも示すなど、生徒支援と同様に保護者支援も行う。

（３）地域との連携
・次年度はコミュニティ・スクール４年目となり、創立５０周年記念事業も実施する。地域との連携を強化し、社会に開かれた教育課程の実現に加え、地域総がかりの教育体制をさらに構築する。

6　総括的な学校評価

令和５年度も生徒・保護者・教員・学校関係者の四者で設問をそろえた学校評価アンケートを実施し、それを分析・検討しその課題解決に取り組んでいきたい。４年度の評価を受けて、　以下の点を重視し学校運営に取り組んでいきたい。

（１）確かな学力向上と授業の工夫改善
○常に生徒の今の姿に目を向け、その様子から直面している課題を明らかにし、改善(PACD サイクル)を行うこと必要である。また、生徒の学力の二極化が顕著であることからも、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と、各教科のメリハリのある単元計画の下に、発表、話し合い活動や課題解決学習など協働的な学習に取り組ませ、主体的に学習に取り組む姿勢へと発展させて行くことが重要である。
○研究授業と校内研修を OJT の柱にして教職員の資質向上に取り組んでいく。また、分かる授業、学ぶ楽しさを感じる授業やより主体的な学びから、自己調整力や「学びに向かう力、人間性」を高める。
○一人１台端末を積極的に活用することで、生徒が主体的に問題解決できる力や情報活用能力を育成し、ミライシード等の取組みによる個別最適な学びから家庭での学習習慣づくりにも活かして行く。

（２）不登校・特別支援教育
○不登校生徒には、「学校復帰」へのアプローチは欠かすことはできないが、実態は個によって様々である。「学校復帰」のみを目的とするのではなく、登校できなくても「学習保障」「他者と人間関係の構築」の重要性も押さえておく必要がある。その点からも教育センター等との連携に力を入れる。また、教員と生徒とのつながりを重視し、教員が積極的に生徒に共感や信頼を寄せ、生徒が教職員に気軽に話し、相談できる良好な関係を築いていくことを土台とする。
○担当者や担任が一人で抱え込むのではなく、校内支援委員会、福三教室、SC・SSW や外部機関との連携を図り、学年会、生活指導部会、職員会議等で情報を共有し、学校全体で取り組んでいく。
○教員の生徒理解力を高め、自尊感情や自己肯定感を育成する視点で教育活動を充実さる。

（３）地域との連携
○次年度はコミュニティー・スクールの４年目となり、活動のねらいをより意識し推進する。生徒の多面的な成長を促し、地域貢献のためにも、地域に開かれ、信頼される学校づくりを行う必要がある。また、そのために、学校支援地域組織との相互の連携により、「地域防災・安全指導」「地域の人材から学ぶ」「学校・地域美化活動」「挨拶運動等の健全育成」「学校評価」をより確実なものにする。